

ビジネスパーソンに読書と交流の機会を

杉井 亜希子(石川県立図書館)

1 石川県立図書館の概要

令和 4(2022)年 7 月 16 日、構想から約 5 年、125 億円の建築費をかけ、石川県立図書館「百万石ビブリオバウム」が金沢大学工学部跡地に移転開館した。地上4階地下1階建て、開放的でありながら静謐な雰囲気である円形劇場のような吹抜け空間が注目を集め、開館 1 年足らずで来館者 100 万人を達成した。1) 2) 毎週開催される多彩なイベントは、職員の自由な発想をもとに行われている。令和6(2024)年度は NHK「ドキュメント 72 時間」に取り上げられ、令和 6 年度の来館者は119万2832人で、2 年連続で都道府県立図書館の中では日本一となった。

2 石川県立図書館のビジネス支援

開館当初の整理では、ビジネス支援の主役はあくまで当事者で、公共図書館は普及、情報提供、学習機会の提供に重点を置くとされている。そのため、サービスの提供にあたっては、イベントを数多く開催する中で、主催者とのつながりを深め、県庁各課と円滑に連携できる体制の構築に力を入れてきた。

その一環として、「いしかわ農業総合支援機構」3)と連携しての「いしかわビブリオマルシェ」や「いしかわ耕稼塾」4)、その他食にまつわるイベントを実施している。特に生産者自ら新鮮な農産物を販売する「いしかわビブリオマルシェ」の開催は 9 回目となり、7 千人以上の来館者を記録し、石川特産品のPRや、生産者と購入者をつなぐ場となる人気イベントとなった。

また、伝統産業、伝統工芸のレファレンスが増加している。人口 100 万人当たりの日展入選者数、日本伝統工芸展入選者数全国1位 5)6)であるという石川県の土地柄を反映し、漆の配合や塗り分け方、加賀てまり、茶室の炉縁の作り方等の問い合わせが寄せられている。

当館の円形空間では、配架に独自の「12 のテーマ」を採用しており、その 1 つに「仕事を考える」がある。7)初めて働く人から定年後のセカンドキャリアまで、多様な視点で選書しており、本年度は「今、選ばれているビジネス書はこれだ」というビジネス書の受賞作品コーナーを設けたところ、大人気となった。このコーナーでは、ビジネスマンの教養書のほか、就職活動を行う学生～社長～セカンドキャリアといったアバターを設定し、各年代層をセグメント化して選書を行っている。

3 石川県の課題

地域の喫緊の課題としては、令和 6 年 1 月の能登半島地震、令和 6 年 9 月能登半島豪雨

からの復興がある。石川県立図書館は、レファレンスやレフェラルサービスを通じて、被災者支援を行ってきた。県が策定した石川県創造的復興プラン⁸⁾では、石川県はコミュニティの復活と、多様な形で地域に関わる関係人口の増加を基本姿勢に挙げている。

ビジネスの視点でも重要な課題がある。石川県は大都市圏に比べ、アクセスできる情報や、異業種同士のビジネスパーソンが交流する機会が非常に少ない。アフターコロナ以降はオンラインによる交流が増えているが、オフラインでの人と人とのつながりは、他に代えがたい価値があるため、地域において多様な職種のビジネスパーソンと交流し、思考や人脈の幅を広げていく場が必要である。このような場としては、一般社団法人石川県ニュービジネス創造化協会の異業種交流会⁹⁾などがあるが、料金が1万円程度と高額であり、多くのビジネスパーソンにとって参加のハードルとなっている。

図書館や読書を軸とした事業としては、富山県の文苑堂書店で開催される「経営書の読書会」¹⁰⁾がある。ただ、残念ながら石川県内での図書館や読書会を軸とする事例は見つからなかった。

以上を踏まえ、石川県立図書館の強みである職員の自由な発想を許容する空気、「今、選ばれているビジネス書はこれだ」コーナーの人気、注目度の高さと多数の来館者というポテンシャルを活かし、ビジネス支援団体との関係構築と、ビジネスパーソンの交流を促進するために、ありそうでなかったビジネスパーソン向けの取り組みとして、次の事業を提案する。

4 ビジネス書読書会&交流サロンの提案

文芸作品が中心の読書会団体は以前からあったものの、会員は高齢者中心だったため、現役世代が参加できる猫町倶楽部¹¹⁾のような読書会はないかという問い合わせを以前から受けていた。また、今年度開催した婚活イベント¹²⁾のアンケートでは、読書を通じた交流会を望む意見が多かった。

当館のビジネス支援の有力な連携先として、金沢大学教育 NewPlatform¹³⁾があり、令和6年度には、ビジネス書の著者を招いた共催イベントを行っている。¹⁴⁾

これらの状況を受け、ビジネスライブラリアン講習会での課題を元に企画を練り直した。

(1) 目的

ビジネス書を通じた学びと交流の場を提供し、地域のビジネスパーソンの成長と人的ネットワーク拡大を支援する。また産業支援機関と連携することで、参加者が実践的なアドバイスを得られるようにする。

(2) 連携先

核となる金沢大学教育 NewPlatform の他、業務内容や他県の実績を参考に、県内全域を支援対象とする2団体を選んだ。

(公財)石川県産業創出機構15)

石川県の中小企業・ベンチャー企業の新事業創出、創業、研究開発、販路開拓を総合的に支援する機関。石川県地場産業振興センター内にあり、県産業政策課が担当である。館内には ISICO ライブラリがあり、担当を通じて話を通しやすい。

よろず支援拠点 16)

国が設置する中小企業・小規模事業者・創業予定者の経営支援を行う石川県の窓口。財団の委託を受けたコーディネーターが、経営相談やミニセミナーを行っている。鳥取県立図書館の小林隆志氏がビジネス支援の連携先として名前を挙げていた。

(3)実施に当たって

過去の事例から参加者のニーズを分析し、2 部構成とした。また、課題図書は金沢大学教育 NewPlatform との繋がりがある著者のビジネス書とし、著者、産業支援団体、利用者の交流の場とする。

募集人員 ビジネスパーソン30名(先着順)

参加条件に名刺持参を課し、募集の段階で、職種および興味関心のある分野を記載してもらう。

広 報 自館 HP および SNS(X)、県庁掲示板、著者 SNS、連携先、石川県商工労働部、商工会議所、地元企業の人事研修担当、オンライン市役所 17)

前半:思考を深めるインプットタイム「著者と読むビジネス読書会(60 分)」

金沢大学教育 NewPlatform とネットワークのある、ビジネス書の著者を招いて行う。参加者は事前に読んでくことを条件とし、当日は、5-6人のグループを作り、ファシリテーター進行のもと、参加者は重要な学びや実体験と結びつけた感想を課題図書の著者とシェアし、学びを深める。

後半:つながりを広げるアウトプットタイム「ビジネス交流会(60 分)」

読書会の会場にて実施。館内カフェからは 1 ドリンクを調達(1,000 円程度)。有料とすることで、意欲の高い参加者を集める。ミニピッチタイム(各自 1 分)では、自己紹介 & 最近の関心事を簡単に発表。テーマ別交流テーブルでは、マーケティング・起業・DX・人材育成など、興味関心ごとにグループ分けし、自由に交流する。連携先の専門家、著者も参加し、実践的なアドバイスを提供することで、参加者同士の交流を促す。

(4)開催者、参加者にとってのメリット

参加者は地域のビジネスパーソンとの交流を通じ、新たなビジネスチャンスを生み出す機会を得る。連携先は、図書館の知名度を活用し、新たな層にアプローチ & 専門家の知見を

広める場となる。図書館は、新たな連携を構築し、地域のビジネス支援拠点としての認知度が向上するというメリットがある。

(5)運営のポイント

名刺持参を推奨し、名刺交換タイムを設ける。なお、会の秩序を保つため、事前にマルチの営業・勧誘を禁止する等の対策を考える。

(6)予算

予算は次の通りとする。なお、ファシリテーターの予算を見込んでいるが、当館は毎週のようにイベント、研修等を行っているため、職員が代行することも可能である。

計 ￥508,800

(内訳)

ビジネス書著者旅費謝金 ￥130,000×3回＝￥390,000

県内団体謝金 ￥6,800×2時間×3回＝￥40,800

課題図書費 ￥3000×3回＝￥9,000

打合せ・当日交通費 ￥1000×4回＝￥4,000

ファシリテーター ￥20,000×3回＝￥60,000

需用費 ￥5000

(7)スケジュール

準備、開催にあたっては、年度当初、年度末、6月の決算期を避け、年3回の開催とする。また、図書館の繁忙期である8月を避ける。

令和7年5月 館内調整、情報収集

7月 連携先に打診、打合せ

8月 広報開始

10月 第1回実施

12月 第2回実施

2月 第3回実施

(8)評価指標

参加者数及び内容についての評価を行うためアンケート。結果を分析することで、今後のブラッシュアップにつなげる。

(9) 将来への展開

連携先の金沢大学教育 NewPlatform は、一定のコア層をすでに獲得し、和菓子文化のアップデート、中高生アントレプレナーシップ「IPPO」、加賀野菜の育成など、多彩なプロジェクトに取り組んでいる。事業を継続することで業種を超えた横断的なコミュニティが生まれる。これらが図書館と結びつくことで、地域が活性化する。また、ゆくゆくは事業の運営も任せていきたい。事業が軌道に乗れば、市町立図書館でも同様のイベントを開催し、さらなる展開を図っていく。石川県の読書会は、中田邦造以来の長い伝統がある。18)最近でも若手の職員が中心となった「金沢ミステリ倶楽部」やかほく市立図書館での読書会などがあり、開催のノウハウは各図書館において蓄積されていると考えられる。石川県内の図書館は、相互貸借や研修会、県内巡回を通じて関係を深めている。情報交換を行いながら、新たな連携先を模索し、県全域で図書館のビジネス支援を盛り上げていきたい。

5 まとめ

石川県立図書館の新規事業を考えるにあたり、内外の事例を調べてみたところ、利用者に好評な自館の事業は、ミステリファン＝ミステリイベント、くいしんぼう＝ビブリオマルシェなど、事業を企画した担当が一番楽しんでいることに気がついた。外部の事例としては、紫波町図書館(岩手県)の「“わくわく”をシェアするイベント」をうたう「夜のとしょかん」19)と、「ビジネス支援図書館推進協議会・選書研究会」の「選書研究会による『ビジネステーマ別図書リスト』を公開します」は、ファシリテーションを行う上で参考としたい。20)

参考

1)『めぐる、めくる、めくるめく』 仙田満 〓 編 建築画報社 2023.11

2)石川県立図書館 HP

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/index.html>

3)公益財団法人 いしかわ農業支援機構

農地の斡旋・確保から人材の育成・確保、経営の効率化までをワンストップで支援する機関

<https://inz.or.jp/>

4)いしかわ耕稼塾

いしかわ農業支援機構が実施する、プロ農業者から農業の応援団まで、幅広い人材の養成を行う事業

<https://inz.or.jp/informations/school/>

5)『令和6年(2024年)版 石川100の指標』 石川県 〓 編集・発行 2024.3

6)いしかわ統計指標ランド

https://toukei.pref.ishikawa.lg.jp/search/detail.asp?d_id=4863

7)石川県立図書館「本と出会う 12 のテーマ」

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityguide/1040.html>

8)石川県創造的復興プラン

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukkyuufukkou/souzoutekifukkousuishin/fukkouplan.html>

9)石川県異業種ビジネス交流会の開催について

<https://newsoukyou.com/info/20240704.pdf>

10)経営書の読書会

文苑堂書(毎月第 1 金曜日 18 時～19 時 30 分)

<https://www.bunendo.com/news/11822/>

11)猫町倶楽部

日本最大級の読書会コミュニティ。下は 10 代から上は 70 代までと幅広い世代に支持されている。

<https://nekomachi-club.com/>

12)図書館で恋カツ～本好きさんいらっしやい～

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/event2024/4065.html>

13)一般社団法人 金沢大学教育 NewPlatform

教育の成果を地域全体に還元することを目的とし、「PROJECT HESO」など産学連携の幅広い活動を行っている。

<https://kuenp.or.jp/>

14)教育とビジネスの交差点 マネジメントを通して人を育む

<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/event2023/3734.html>

15) 益財団法人 石川県産業創出支援機構 (ISICO)

<https://www.isico.or.jp/>

16) 石川県よろず支援拠点

<https://ishikawa-yorozushien.go.jp/>

17) オンライン市役所

全国の公務員で運営する、公務員限定のオンラインプラットフォーム。3,000 名以上の地方公務員・国家公務員が集まり、活発な情報交換が行われている。

<https://www.online-shiyakusho.jp/top-1>

18) 『複眼の世界—読書と読書会』 梶井重雄 || 著 紅書房 2009.6

19) 夜のとしょかん

https://lib.town.shiwa.iwate.jp/topics/20140529_01.html

20) ビジネス支援図書館推進協議会・選書研究会

<http://www.business-library.jp/2023/05/14/sensho-2/>

URL 確認日 令和7(2025)年6月3日